

立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）  
 大学院生研究  
 2011年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院			文学 研究科	史学 専攻
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年		氏名		
	文学研究科史学専攻 博士課程後期課程3年		橋本 佐保 印		
指導教員	所属・職名		氏名		
	文学部教授		荒野 泰典 印		
自然・人文・社会の別	自然	人文	社会	個人・共同の別	個人
研究課題名	風聞書「よしの冊子」の史料学的研究ーテキストマイニングによる分析ー				
研究組織	在籍研究科・専攻・学年		氏名		
	立教大学・文学研究科 史学専攻・博士課程後期課程3年		橋本佐保  以上		
研究期間	2011 年度				
研究経費	200 千円				

**研究の概要** (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

「よしの冊子」は「寛政改革の資とすべく収集した風聞書」とされ、「寛政改革」研究をはじめ様々に利用されてきたが、その前提自体を疑わなければならなくなっている。その事について以下3つの留意の流れがある。①まず内容が雑多で、「寛政改革の資」という言説が信じ難い。そこで元の形を推測する必要が生じる。②しかし原本が既に失われていて、写本からしか類推できない。また写本自体の伝来の経緯そのものがまだ不明なままである。③また、記事が膨大な数にのぼり、丹念に記事を読みこむだけでは史料全体のカバーする範囲や傾向などを抽出するのは難しく、何らかの電子的な処理が必要になるという事である。そこで、1 写本の探索。2 本史料の記事の読み込みと各記事についての他史料との突合せ。3 本史料の内容・傾向などの全般的な性格についての客観的な把握。以上3点の作業課題が浮かび上がってくる。

**キーワード** (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[ よしの冊子 ] [ 松平定信 ] [ 寛政改革 ]

**研究成果の概要** (図・グラフ等は使用しないこと。)

上記の研究概要によって、上記の作業課題のうち、「1 写本の探索」を進める事が出来た。これまで、「よしの冊子」は原本が失われており、更に写本も無いとされていたことから、その伝来経緯がはっきりしていなかった。しかしながら慶応大学が所蔵する「雑記」以外にも、もう一つ写本の存在が明らかになった。それは桑名市立図書館が所蔵する秋山文庫の「よしの草紙」である。本稿では、「よしの冊子」写本の系統と、2011 年度の調査で得た写本の紹介を行っていきたい。

**(1) 「よしの冊子」たちの来歴**

まずここでは、現在明らかになっている「よしの冊子」の原本や抄本、写本について述べておく。なお、矢印以下は、本助成金で行った作業である。

**原本** 所在不明。

作成：水野為長 (田安家臣、定信付小姓、1751～1824)

成立：天明初年～寛政中期頃。

冊数：全部で 169～200 冊ほど。

**抄本** 所在不明。

作成：田内親輔 (月堂、桑名藩士、小姓、1847 致仕)

成立：文政 13 年 (1830) 閏 3 月～。

冊数：19 冊か。

定信の遺箱の中から為長筆の原本を発見し、抄出。後世に定信の施政を伝える一端とするために作成したこと・藩友以外には見せてはならないことを明記。ここで親輔が原本の冊数について触れている。

**抄本の写本****①桑名市立中央図書館所蔵、秋山文庫「よしの草紙」**

作成：秋山貫通齋 (桑名藩士、1789～1874) か。

成立：不明。

冊数：20 冊、原本の 1～159 冊 (21～24、63 欠。天明初年～寛政 4 年 9 月分) を収録。

昭和 34 年伊勢湾台風で被災、元々の冊数は不明。田内本の内容を忠実に筆写していると考えられる。「実説」「虚説」などの書き込みが見られる。朱は反映せず。

→2012 年 3 月の出張で調査・撮影を行った。20 冊中 10 冊が撮影済み。

**②国立国会図書館所蔵、駒井乗郵叢書鶯宿雑記「よしの冊子」**

作成：駒井乗郵 (桑名藩士、大目付、1766～1846)。

成立：～天保 7 年 (1836) 11 月 23 日。

冊数：19 冊、原本の 1～169 (21～24、63 欠。天明初年～寛政 5 年 [1793] 7 月 23 日分) 冊分を収録。

田内の抄出・書き込みに加えて、更に乗郵が書き込み。乗郵の書き込みは、大体「乗郵案に」「乗郵曰」などと書かれている。『随筆百花苑』第 8、9 巻の底本。

→マイクロフィルムから印刷、製本を行った。「よしの冊子」冒頭部分と終盤部分を印刷。

**③慶応大学所蔵「雑記」**

作成：不明。

成立：～弘化元年 (1844)。

冊数：上下 2 冊。

上巻…80 丁、原本の 150～162 冊の途中まで (寛政 4 年 [1792] 3 月 22 日～12 年正月分)。

下巻…57 丁。原本の 163～? (寛政 5 年正月～6 年 3 月頃)。

30 丁表～57 丁表 (寛政 5 年 7 月 24 日～6 年 3 月前後) が鶯宿雑記「よしの冊子」未収録部分。

題箋は後に修復製本した際に新たに付けられたもの。「雑記 天明寛政 上 よしの草子」「雑記 天明寛政 下 よしの草子」とある。それぞれ「よしの草子」の部分は朱書。各冊巻頭に、慶応大学図書館の所蔵印と幸田成友文庫印があるが、上巻には「水野家蔵」印もある。

→すでに史料は印刷済み。改めて複本を作成した。

**研究成果の概要 つづき****(2) 「よしの冊子」写本の伝達ルートについて**

これまで写本の存在が認識されていなかった「よしの冊子」であるが、今回の調査によって写本の伝達ルートがいくつか存在する可能性があることが明らかになってきた。まず確実に言えるのは、定信の施政を後世に伝えるために桑名藩士・学者らによって書き伝えられたルートである。それではここで、それぞれの写本について簡単に説明していきま。

**② 鶯宿雑記「よしの冊子」について**

まず、これまで最も有名であった、② 鶯宿雑記「よしの冊子」について述べていく。鶯宿雑記は、学者・大蔵書家として知られた桑名藩士駒井乗郵の叢書である。駒井乗郵は幼少期より小性として定信に仕え、老年になっても大目付を勤めるなど定信に目をかけられていた。彼の書き写した藩士たちの業績は、「鶯宿雑記」としてまとめられた。この中に「よしの冊子」が含まれており、これが『随筆百花苑』に翻刻・紹介され、世に知られることとなった。

**① 秋山文庫「よしの草紙」について**

次に、秋山文庫「よしの草紙」についてである。秋山文庫の創設者秋山貫道齋は桑名藩儒者で白河藩時代から定信に重く用いられ、藩校立教館で教鞭をふるった。貫道齋という号も定信から賜ったものである。秋山文庫の「よしの草紙」には、田内親輔が書いたであろう補足事項は反映されているものの、駒井乗郵が書き入れたであろう文章は見受けられない。すなわち鶯宿雑記とは別のルートで、親輔の抄本から書き写されたものであることが分かる。秋山文庫「よしの草紙」がカバーする年代は、天明初年から寛政4年の9月分となっている。これ以降の年代のものも存在した可能性は高いが、恐らく伊勢湾台風で被災して失われてしまったのだろう。

**③ 慶応大学所蔵「雑記」について**

上記2点は伝来が明確になっているものだが、一つ、来歴が明確でないものがある。それが、慶応大学が所蔵する「雑記」である。鶯宿雑記・秋山文庫のものとは違って、鶯宿雑記「よしの冊子」収録の風聞と内容はほぼ一致しているものの、それらの収録箇所が異なっているものが数多く見られる。鶯宿雑記「よしの冊子」は一つの話題ごとにある程度編集され、共通した話題を持ついくつかの風聞がまとめて記されているが、幸田文庫「雑記」にはそれが見られず、様々な内容の風聞が散在している。秋山文庫「よしの草紙」と鶯宿雑記「よしの冊子」は、確認出来た限りでは、風聞の並び順も内容も一致しているので、彼らのどちらかが編集したとは考えられない。すなわち、親輔か、或いはそれ以前に編集が為され、「雑記」はそれ以前の状態で書き写されたものと考えられよう。

「よしの冊子」が定信及び桑名藩関係者以外の者に渡されたことは考えにくいこと、「水野家蔵」の捺印があったこと等を加味すると、幸田文庫「雑記」は原本作成者水野為長の家にあった「よしの冊子」の写本なのではないかと推測することも出来るし、老中職に就職したものに伝えられる史料の一つなのではないかと考えることが出来る。

さらに興味深いのは、これまで寛政改革の期間中分しか存在しないと考えられてきた「よしの冊子」の風聞が、「雑記」には寛政6年分まで存在するという点である。

**(3) 今後の作業課題**

上記の写本を得た上で浮かびあがってくる今後の課題は、以下の通りである。

まず一つ目は、来歴が明確ではない慶応大学「雑記」の内容検討である。「雑記」の新出部分以外の、内容の把握と照合する事で、原本に近い形を追うことが出来よう。

また、内容自体はもちろんのことながら、史料的な性質を突き詰めていく必要もある。秋山文庫や鶯宿雑記とは系統の異なる「雑記」が、どうして慶応大学に存在するのかなど、史料そのものの来歴も明らかにしなければならない。そのためには慶応大学の文庫の来歴なども明確にしていかなければならないだろう。

慶応大学「雑記」だけでなく、秋山文庫「よしの草紙」の内容の比較検討も同時に進めていく予定である。

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

④口頭報告 於徳川林政史研究所春季研究報告会

題目:「よしの冊子」写本の伝達と慶応大学所蔵幸田文庫「雑記」について

以上